

登山・登攀の記録

白山山系 全山スキー縦走 口三方岳—笈岳—本峰—別山—石徹白

日時:1982年3月13日~3月29日

メンバー:CL 伊串達夫、塔下守、吉田保夫、加藤誠、松浦尚

概要:金沢市域南部に位置する口三方岳から白山本峰を経て奥美濃野伏岳までスキーを駆使して長距離約50km、白山全山の縦走計画。当時のメンバーには積雪期登攀技術の蓄積は無かったが、佐野坂小屋での技術習得を活かしたスキーによる縦走を志向した。本計画では旧態の重量団装しか持たず、軽量化が困難ゆえ、前年秋にコース中二カ所(三方岩岳、南竜山荘)へデポを上げてスキー登高の負担軽減を図った。北ア等と比し全般的に標高は低いものの、夏には近づき難い笈ヶ岳稜線や前後の立派なブナ原生林のトレースはたいへん魅力的であり、また白山山塊の広大さを体感させる良い山旅であった。

記録

3月13日 晴

取り付き(7:00)-合流点(8:00/9:00)-キャンプ1(16:00)

鶴来よりタクシー2台に分乗して内尾へ。内尾より先も除雪されていたがパワーショベルが通せんぼ。スキーを持って歩くが途中で除雪が切れて歩き難い。林道脇に幕営。

3月14日 快晴

T. S(8:15)-口三方岳下(16:00)

吉田の時計鳴らず、6時ごろ起床。あたふたとパッキングして尾根に取付くが雪がなくスキーを持って歩く。かなり急な道である。尾根からわずかな雪を頼りにスキーを引きずる。540mぐらいからスキーを履く者、履かない者に分かれるがそう変わらない。加藤のシール潰れ修理。天気快晴で無風なので暑く、雪は腐り、旗はブッシュに引っかかる。対面には烏帽子山が大きく見え、南方には白山らしきものが遥かに望めた。800m位からは比較的なだらかになり登り易くなる。最後の瘠せ尾根を越えて凹地から三方の肩に出て一部で頂上をトレースした後、南東側に少し下りた処まで。

3月15日 曇から雨

沈殿。パッキング半ばにして雨がパラパラと降り出す。様子を見ていたが出そびれて沈殿となる。

3月16日 霧と晴 交互

T. S(7:10)-中三方岳(12:30)-△1326(15:00)-T. S(15:30)

4時起床。出発頃になり突然霧が晴れ良い天気となる。スキーで出発し・1230の手前でワカンに

切替。このピーク、右側はスパッと切れ落ち、左側も急斜面で何段にも割れて雪もグサグサで、かなり時間を食った。口三方から奥三方へは50~100m高低差のコブを何度も何度も越えてゆく。中三方への途中からガスが掛かり、そのガスは木々に捉えられて雨の如く身に掛かる。中三方の詰めはかなりきついクラストの雪面。中三方はガスかかると方向を見失い易い。降りた処で40分程昼食。そのうちガスが晴れる。次のピークを巻いて数人滑る。△1326の次のコブに絶好のT. Sを見つける。奥三方はまだ遠い。

3月17日 晴

T. S(8:05)-奥三方・奈良岳の科尔(12:00/13:00)-奈良岳(13:50)-・1691手前科尔(15:00)

出発後すぐにアイゼンに換える。・1353の登りは急で雪が腐りきる午後には通過困難か。肩でスキーに換えるが・1456の登りで再度ズッポに。大径のブナ林の急登である。上でスキーを履き快適に奥三方・奈良岳の科尔へ。そこで昼食。奥三方は南東に大きく雪庇が出ていた。奈良岳までは1ピッチ。大笠山がよく見える。奈良岳を斜滑



登山・登攀の記録

降で下って数mの段差に出喰わす。これはワカンでそろりそろりと越す。次の段差は右へ回り込む。三つ目の雪壁は手強く右側をトラバースすることにして明日に回す。霧の中から奥三方が光って現れ美しかった。

3月18日 雪のち曇のち晴

T. S (12:15) - 大笠岳 (15:00) - コル (16:10) - 1741 (宝剣岳) 手前 (17:15)

起きたらガスの中で時々雪が降っている。パッキングをして待機。12時前に天気回復、出発。

・1591の手前のコブは右に巻き・1591とのコルへ出て雪庇を気にして急登10mを登る。スキーを履いて行くが急な所もあり富山側には大雪庇。いつの間にか晴れている。最後はスキーを脱いで大笠へ。頂上は大変広く、西端に行くとき千丈平が大きく見える。ブナ林を・1741 (宝剣岳) とのコルまで滑る。笈岳は100m程スキーで登ったが急でクラストしているので脱ぐ。・1741の手前で幕営。手取川の下流、日本海がよく見える。T. Sの真下は水晶谷で急傾斜に落ちている。

3月19日 晴のち曇

T. S (8:10) - 笈岳 (9:50/10:10) - 仙人窟岳手前 (12:10/12:50) - 瓢箪山 (16:30) - 三方岩岳 (17:45)

朝、笈岳の急斜面をアイゼン・ピッケルでカッティングも含め快調に登る。途中、熊がトラバースしているのが見えた。頂上では360度の展望があり本峰から北アまでよく見える。すぐに降りるが南面は雪が腐っていて歩き難い。引きずっているスキーが邪魔だ。仙人窟とのコルの手前で尾根の雪がほとんど割れていて一週間後には通過不能になると思えた。仙人窟のすぐ手前で昼食。ここからはスキーとなるが下りになって脱いで、また履いて、コルからはワカンになって登る。この辺り尾根は段々になっていて割れ目もある。コルからは痩せ尾根で右側スッパリ切れ落ちる。なかなかのスリル。1600m位からスキーを履き大きくトラバースして瓢箪山に到る。あと1ピッチで三方岩岳に到着。加藤のシールが崩壊し、大きく遅れる。北峰のデポ缶は雪に埋もれず地面の上に出ていた。めでたし、

宝剣岳より笈岳(△1841)



めでたし。T.Sは北峰と南峰の間の樹林帯にとる。

3月20日 霧または雪

沈殿。デポ缶の整理。

3月21日 雨

沈殿。前夜より雨。テントに水溜りできる。不快。

3月22日 晴

T. S (8:30) - 野谷荘司山 (11:00) - もうせん平 (12:20/13:10) - 妙法山 (14:15) - オモ谷 (17:00)

遅い出発となる。風強くはじめてヤッケ登場。クラストあるいは粉雪のダンゴ等で消耗する。時間を喰う。この調子が野谷荘司の下まで続く。真下には白川郷が見える。そこからはダラダラとした登り下り。もうせん平で昼食。妙法山は2/3までクラスト気味を騙してスキーで登るが断念、残りをツボ足で苦しむ。下りもズボズボはまって堪らん。残りをスキーでオモ谷との出合まで。一部脍せて雪庇も発達していた。出合はオオシラビソの林。沢も出ていて久方ぶりに流水を呑む。

3月23日 晴のち曇のち雪・ガス

T. S (7:10) - 間名古の頭 (9:20) - 2168 (11:30/2:15) - 2349 西方のコル (14:10) - 翠ヶ池北岸 辺り (15:55) - T.S (16:10)

オモ谷の左岸を詰める。谷は途中まで割れていた。三俣峠には上がりず谷を最後まで行く。風が強い。目の前の三方崩山が大きい。間名古の頭へはツボ足で行く。そのまま下ってゆくとクラストした斜面となったのでアイゼンを着用。強風の中引きずっているスキーに気を取られながら下る。登り直して・2168までスキー。そこで昼食。再びアイゼンに換えて北弥陀ヶ原を快調に進む。・2349を降り切った所で西からの堤のような雲が近づくのを見るが予備日のことや荒天後の雪崩のこと等を

登山・登攀の記録

考慮して本日中に山頂部に上がることにする。大汝峰に直接突き上げる尾根は手強そうなのでほぼ夏道通しのルートを通り夏道のある支稜を直登する。かなりの傾斜で背中のザック、そしてスキーが応えるが休む平坦地の無いクラストなので1ピッチで登り切る。登る間に天気は悪化しガスが出て翠ヶ池の上のコブに上がったときには吹雪となり視界なし。磁石で位置確認と考えたが岩が磁気を帯びていて役に立たない。赤旗と人影とで100mほど移動して岩陰を見つけてT.Sとする。スキー、ピッケル、ハーケン総動員で1時間半後になんとか中に入れた。

3月24日 ガスのち晴

沈殿。午後遅く晴れ間が広がり、現在地(翠ヶ池北岸の大岩の下)を確認する。真前に剣ヶ峰と御前峰、後方に大汝山。塔下、大汝往復する。どうも上部だけの晴れ間らしい。

3月25日 ガスもしくは雪

沈殿

3月26日 ガスのち晴

T. S (11:45)-室堂(12:20)-南龍ヶ馬場(13:20)

昼前ガスが切れてきたので急ぎ撤収して出発。歩き出すと急に寒気を吸い込んだ為か息苦しい。御前峰を回り込むようにトラバースするうち、下に弥陀ヶ原の建物が見え直進する。冬季小屋は出ていた。その横に11月のデポで甚ノ助小屋に置いて来た旗を見つけた。誰が使ったのか。弥陀を出てすぐ、あるいはトンビ岨辺りから南龍へ滑る。踵固定での今回初めての滑降であった。南龍では雪に埋まっていたがデポ缶は無事回収できた。

本報直下 後方は御前峰(左)と剣ヶ峰



3月27日 快晴

T. S (8:00)-・2342 の次のコル(11:10/11:50)-別山谷コル(12:05/12:45)-別山(13:00/13:15)-三ノ峰非難小屋(15:50)

本日終日スキーを引きずってのアイゼン歩き。南龍から△2244に上がり別山を目指す。大屏風の辺りずっと湯谷側に大雪庇あり。・2342を降りた所で昼食。北アから中アまで見える、のどか。出発後加藤のスキーを固定していたビナが外れ、スキーは別山沢へ。200m程下降して回収して来る。ご苦労さん。別山で展望を楽しんだ後、ひたすら降りてそして登って三ノ峰の避難小屋へ。靴ゾレに苦しむ者、暑いと呻く者、雪盲の兆しを感じる者。夜、西方に街の灯を見る。

3月28日 快晴

三ノ峰避難小屋(8:00)-銚子ヶ峰との J.P(10:00)-コル(11:15/12:15)-引返し地点(14:15/15:10)-木谷出合付近(16:00)

急降下しては登りなおす行為を三度繰り返す。二ノ峰、一ノ峰そして銚子ヶ峰との J.P に着く。標高も低く雪は朝から腐っている。そこからスキーでコル(1570m位)まで滑って昼食。シールをつけて願教寺を目指す。しかし日向で濡れたシールが

弥陀ヶ原より別山(△2399)



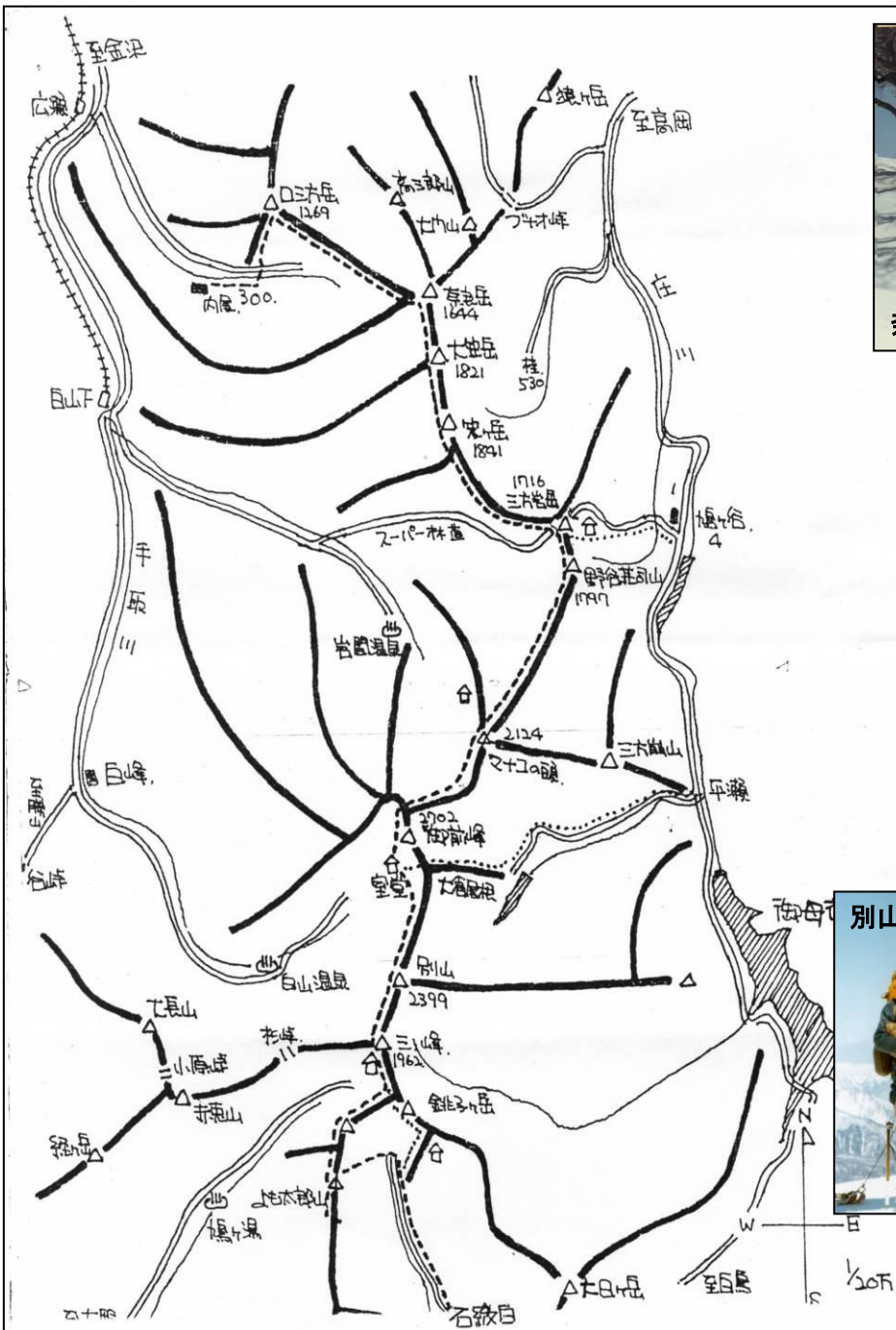
登山・登攀の記録

日陰や新雪に踏込むたびにゲタを履きしんどいこと夥しい。願教寺は雪庇が複雑に出てしかも割れていた。だから肩から斜面を横切り尾根伝いに雪庇の下を巻き、笹の上を滑り、よも太郎とのコル付近まで降る。願教寺の南面は真黒でカラカラと時折崩壊の音がする。次のピッチ(1520m付近)で伊串のシールが崩壊する。石徹白からの林道は大滝より上部までブルドーザーが既に入っているなので、ということもあり、ここで突如 CL の退却宣言が出た。あとは雪の詰まった広い沢を快適に滑り、林道直前の水辺を T.S とした。

3月29日 快晴

T. S (8:00)-林道(8:45)-上在所(11:30)=「白鳥駅(13:40)

朝起きると雪盲患者は3人となった。流れをうまく渡って林道と出会う橋まで滑る。林道は除雪済みで真黒。上在所までスキーを担いでひたすら歩く。スキーの重たさを恨むか、大滝を無事通過できたことを喜ぶべきか、……どちらもでしょう。上在所 13:00 発のバスで4人は下山。塔下は大日岳へ歩いて行く。 (記/塔下)



奈良岳付近のブナ



別山ピーク